発刊登録番号
GOOOFJ1-2018-20

opendata.hira.or.kr

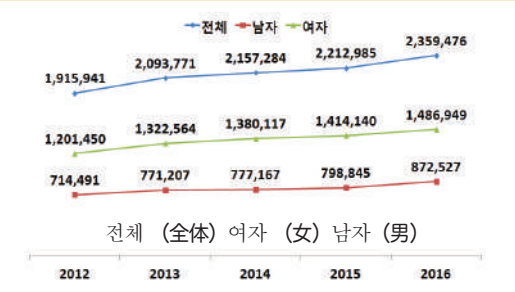
生活の中の病気の統計100選

韓国健康保険審査評価院
HEALTH INSURANCE REVIEW & ASSESSMENT SERVICE

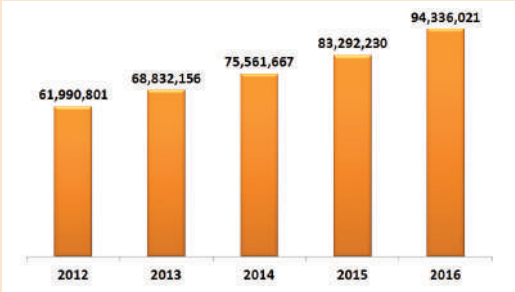
51 角膜炎

推移と現状

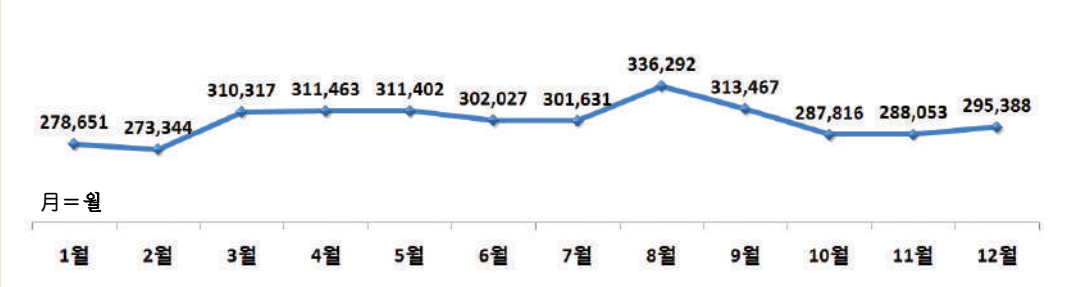
角膜炎の患者数の推移 (単位: 人)



角膜炎診療費の推移 (単位: 千ウォン)

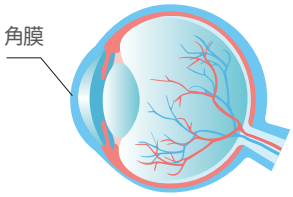


2016年 月別角膜炎の患者数分布 (単位：人)



病気情報

角膜は、私たちの目の黒い部位を覆う透明で血管のない組織で目を外部から保護するだけでなく、光が通過すると、屈折して見ることができるようしてくれる。角膜炎は、角膜に炎症が生じ、痛み、出血、角膜混濁などをもたらす疾患である。



リスク要因	症状	治療	予防
• 感染性 - 細菌、ウイルスなど（通常、黄色ブドウ球菌、緑膿菌） • 非感染性 - 角膜が外気に連続的に曝されることにより引き起こされる	• 流涙 • グレア • 視力低下 • 痛み • 出血	• 薬物治療（抗生物質、抗真菌剤） • 防腐剤フリー、人工涙液 • 治療用コンタクトレンズ • 羊膜移植など	• コンタクトレンズの消毒および管理徹底 • 目を傷つけないように注意

統計情報

■ 統計算出基準

コード	傷病名	コード	傷病名
H16	角膜炎	H193	他分類、他疾患での角膜炎と角結膜炎
H191	ヘルペスウイルス角膜炎と角結膜炎	B300	アデノウイルスによる角結膜炎
H192	流行角結膜炎（B30.0+）	B0051	角膜炎（H191*）

■ 主要統計の現状

- 角膜炎で診療を受けた患者数は、2012年192万人から2016年の236万人に44万人増加し、診療費は、2012年620億ウォンから2016年の943億ウォンで323億ウォン増加した。

<年度別角膜炎の患者数と診療費（2012～2016年）>

[単位：人、千ウォン、%]

区分		2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	平均増減率
患者数	全体	1,915,941	2,093,771	2,157,284	2,212,985	2,359,476	5.3
	男	714,491	771,207	777,167	798,845	872,527	5.1
	女	1,201,450	1,322,564	1,380,117	1,414,140	1,486,949	5.5
診療費		61,990,801	68,832,156	75,561,667	83,292,230	94,336,021	11.1

- 2016年基準で性別角膜炎の患者数は、男女とも、特定の年齢に限定されず、全年齢層で等しく分布することが分かった。

〈2016年 性別及び年齢別角膜炎の患者数〉

(単位：人、%)

区分	全体	9歳以下	10~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上
全体	2,359,476	164,753	208,687	326,590	315,259	344,682	397,819	317,892	227,404	79,169
(%)	(100.0)	(7.0)	(8.8)	(13.8)	(13.4)	(14.6)	(16.9)	(13.5)	(9.6)	(3.4)
男	872,527	89,389	67,482	100,421	114,405	131,128	145,190	122,078	84,097	25,578
(%)	(100.0)	(10.2)	(7.7)	(11.5)	(13.1)	(15.0)	(16.6)	(14.0)	(9.6)	(2.9)
女	1,486,949	75,364	141,205	226,169	200,854	213,554	252,629	195,814	143,307	53,591
(%)	(100.0)	(5.1)	(9.5)	(15.2)	(13.5)	(14.4)	(17.0)	(13.2)	(9.6)	(3.6)

- 月別角膜炎の患者数は、8～9月に多く、これは夏に流行するインフルエンザ角結膜炎（H192）の影響と解釈される。

〈2016年 月別角膜炎の患者数〉

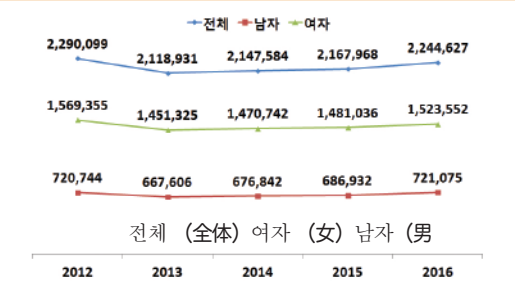
(単位：人、%)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
278,651	273,344	310,317	311,463	311,402	302,027	301,631	336,292	313,467	287,816	288,053	295,388
(11.8)	(11.6)	(13.2)	(13.2)	(13.2)	(12.8)	(12.8)	(14.3)	(13.3)	(12.2)	(12.2)	(12.5)

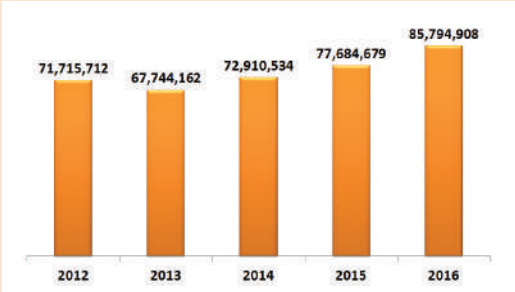
52 眼球乾燥症

推移と現状

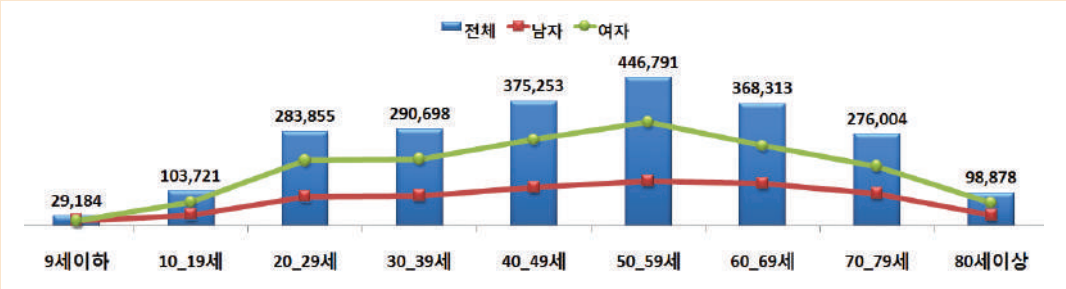
眼球乾燥症患者数の推移 (単位：人)



眼球乾燥症診療費の推移 (単位：千ウォン)



2016年 性別年齢別眼球乾燥症患者数の分布 (単位：人)



疾患情報

ドライアイ症候群または乾眼症候群とも呼ばれる眼球乾燥症は、眼をしっとり濡らして、快適な眼の状態を維持してくれる涙液層の量と質が低下したり、変動が生じ涙液層に異常が発生する疾患をいう。

リスク要因	症状	治療	予防
• 老化による涙の分泌の低下、炎症 • シェーグレン症候群のような全身疾患を伴う場合 • スマホ、コンピュータ長時間使用	• 眼のこわばり、疲労 • 異物感やかゆみ • まぶたが重い感じ	• 人工涙液点眼 • 眼瞼の炎症の治療 • 抗炎症治療など	• 適切な薬で症状軽減 • 長時間コンピュータ作業、読書などを避け、適切な休息をとるようにする

統計情報

■統計算出基準

コード	傷病名
H041	涙腺のその他の障害

■主要統計の現状

- 眼球乾燥症で診療を受けた患者数は年間219万人レベルで、患者数に大きな変化はなく、診療費は、2012年717億ウォンから2016年の858億ウォンで141億ウォン増加し、年平均4.6%の増加率を示した。

〈年度別眼球乾燥症患者数と診療費（2012～2016年）〉 (単位：人、千ウォン、%)

区分		2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	平均増減率
患者数	全体	2,290,099	2,118,931	2,147,584	2,167,968	2,244,627	-0.5
	男	720,744	667,606	676,842	686,932	721,075	0.0
	女	1,569,355	1,451,325	1,470,742	1,481,036	1,523,552	-0.7
診療費		71,715,712	67,744,162	72,910,534	77,684,679	85,794,908	4.6

- 2016年基準　性別眼球乾燥症の患者数は、女性が男性より2倍以上多いことが分かった。年齢別では、男性の場合、50代（18.6%）、60代（17.7%）、40代（16.0%）の順であり、女性は50代（20.5%）、40代（17.0%）、60代（15.8%）の順となった。

　－ 女性が男性に比べて、眼球乾燥症患者が多いのは、コンタクトレンズの着用、化粧などで眼球乾燥が生じ、病気発生の可能性が高くなると思われる。特に50代以上の女性で閉経後のホルモンの変化によって眼球乾燥症が悪化するという研究結果がある。

〈2016年 性別・年齢別眼球乾燥症患者数〉

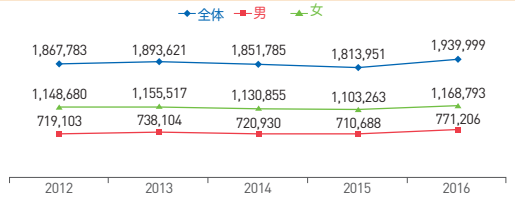
(単位：人、%)

区分	全体	9歳以下	10~19세	20~29세	30~39세	40~49세	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上
全体	2,244,627	29,184	103,721	283,855	290,698	375,253	446,791	368,313	276,004	98,878
(%)	(100.0)	(1.3)	(4.6)	(12.6)	(13.0)	(16.7)	(19.9)	(16.4)	(12.3)	(4.4)
男	721,075	15,133	32,634	86,852	89,912	115,657	134,345	127,395	96,593	31,242
(%)	(100.0)	(2.1)	(4.5)	(12.0)	(12.5)	(16.0)	(18.6)	(17.7)	(13.4)	(4.3)
女	1,523,552	14,051	71,087	197,003	200,786	259,596	312,446	240,918	179,411	67,636
(%)	(100.0)	(0.9)	(4.7)	(12.9)	(13.2)	(17.0)	(20.5)	(15.8)	(11.8)	(4.4)

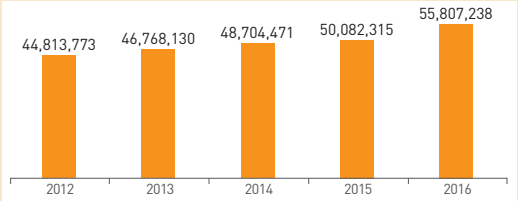
53 アレルギー性結膜炎

推移と現状

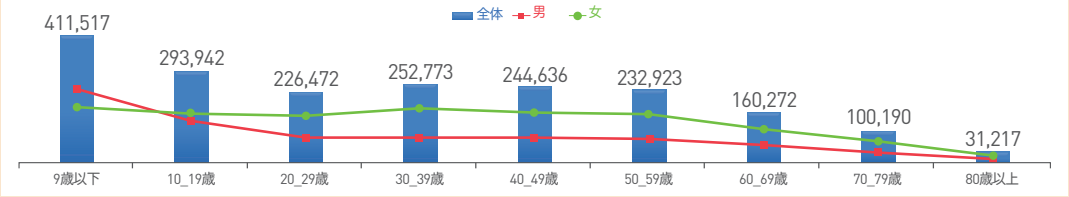
アレルギー性結膜炎の患者数推移 (単位: 人)



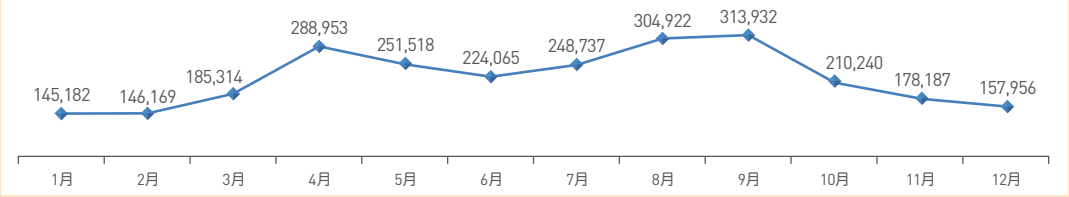
アレルギー性結膜炎診療費の推移 (単位：千ウォン)



2016年 性別年齢別アレルギー性結膜炎患者数分布 (単位：人)



2016年の月月のアレルギー性結膜炎患者数分布 (単位：人)



疾患情報

アレルギー性結膜炎は、特定のアレルギー誘発物質が眼球結膜に接触して結膜に過敏反応を誘発し、発生する結膜の炎症性疾患をいう。アレルギーを誘発する原因物質は、春の花粉、空気中のホコリ、カビ、食物、化粧品など非常に多様である。

リスク要因

- 春の花粉
- 空気中のホコリ
- 動物のフケ
- ダニなど

症状

- 眼や瞼のかゆみ
- 結膜充血
- 眼のほてりを伴う全体的な痛み
- グレアと流涙など

治療

- 薬物治療
  - 抗ヒスタミン剤、ステロイド点眼剤などの使用

予防

- アレルギー誘発物質への暴露を避ける
- 手洗い
- 環境衛生

統計情報

■統計算出基準

コード	傷病名	コード	傷病名
H101	急性アトピー性結膜炎	H1625	春季角結膜炎、輪部および角膜浸潤

■主要統計の現状

- アレルギー性結膜炎の患者は、年間平均187万人程度で変化がないが、診療費は、2012年448億ウォンから2016年に558億ウォンで、年平均5.6%増加した。
  – 診療費の増加は、2012年比で2016年の年齢別患者数と診療費を比較してみると、40歳以上の医療費が大幅に増加して診療費に影響を及ぼしたことが把握されている。

〈年度別アレルギー性結膜炎患者数と診療費（2012～2016年）〉

(単位：人、千ウォン、%)

区分		2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	平均増減率
患者数	全体	1,867,783	1,893,621	1,851,785	1,813,951	1,939,999	1.0
	男	719,103	738,104	720,930	710,688	771,206	1.8
	女	1,148,680	1,155,517	1,130,855	1,103,263	1,168,793	0.4
診療費		44,813,773	46,768,130	48,704,471	50,082,315	55,807,238	5.6

〈2012年と2016年との比でみるアレルギー性結膜炎の患者数と診療費の現状〉

区分	診療人数（人）		
	2012年	2016年	増減率(%)
9歳以下	368,928	411,517	11.5
10-19歳	357,806	293,942	-17.8
20-29歳	228,352	226,472	-0.8
30-39歳	259,766	252,773	-2.7
40-49歳	227,441	244,636	7.6
50-59歳	202,656	232,923	14.9
60-69歳	128,884	160,272	24.4
70-79歳	87,313	100,190	14.7
80歳以上	20,649	31,217	51.2

区分	診療費（千ウォン）		
	2012年	2016年	増減率(%)
9歳以下	8,865,366	11,631,008	31.2
10-19歳	8,015,456	7,731,733	-3.5
20-29歳	4,999,179	5,923,568	18.5
30-39歳	5,782,238	6,784,735	17.3
40-49歳	5,274,444	6,889,031	**30.6**
50-59歳	5,028,011	6,962,363	**38.5**
60-69歳	3,539,658	5,174,508	**46.2**
70-79歳	2,669,601	3,586,945	**34.4**
80歳以上	639,819	1,123,346	**75.6**

- 2016年基準　月毎アレルギー性結膜炎患者数を見てみると花粉、粉塵や黄砂などにより、春から患者が増加し、秋、冬に徐々に減少する傾向が見られる。

〈2016年の毎月のアレルギー性結膜炎患者数〉

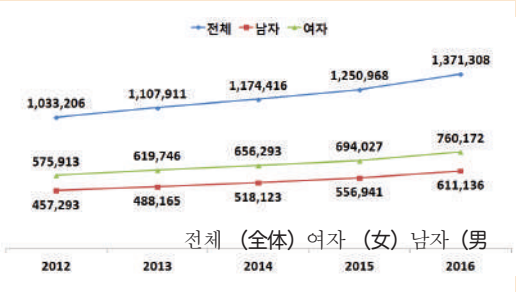
(単位：人、%)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
145,182	146,169	185,314	288,953	251,518	224,065	248,737	304,922	313,932	210,240	178,187	157,956
(7.5)	(7.5)	(9.6)	(14.9)	(13.0)	(11.5)	(12.8)	(15.7)	(16.2)	(10.8)	(9.2)	(8.1)

54 網膜（脈絡膜、硝子体）疾患

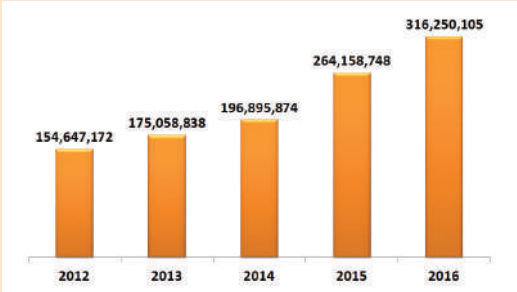
推移と現状

網膜（脈絡膜、硝子体）の疾患の患者数の推移 (単位：人)

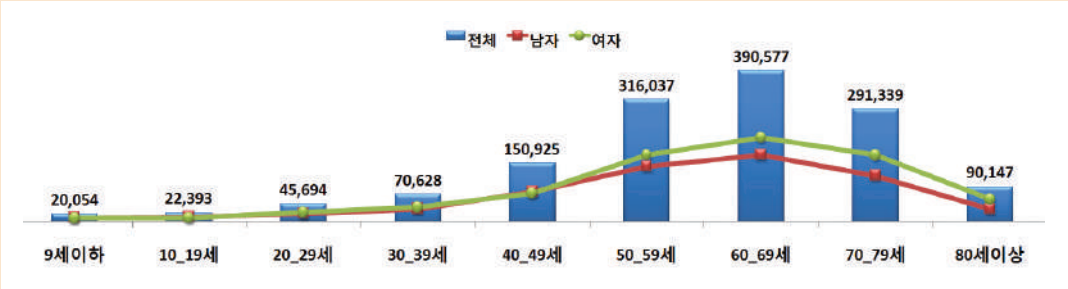


전체（全体）여자（女）남자（男

網膜（脈絡膜、硝子体）の疾患診療費の推移 (単位：千ウォン

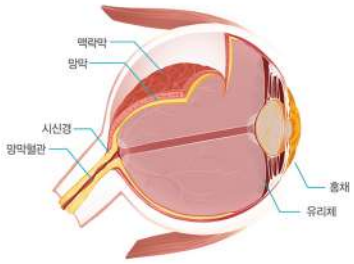


2016年 性別年齢別網膜（脈絡膜、硝子体）の疾患の患者数分布 (単位：人)



疾患情報

網膜は、眼球の最も内側を覆う透明な神経組織で、光の情報を脳に送信して物事を見ることができようにする役割をになう。網膜関連の病気には、黄斑変性、脈絡膜血管症、網膜症、網膜剥離など様々である。



リスク要因	症状	治療	予防
• 網膜裂孔 • 網膜血管炎 • 糖尿病網膜症 • ブドウ膜炎などの炎症性疾患	• 視力低下、物体のゆがみ • 夜盲、飛蚊症 • 失明の症状	• 網膜剥離の治療 - 眼内注射（ガス注入、シリコーンオイル注入） - 硝子体切除術 • レーザー治療など	• 定期検診 • 糖尿病患者の眼科定期検診

統計情報

■統計算出基準

コード	傷病名	コード	傷病名
H30	脈絡網膜の炎症	H34	網膜血管閉塞
H31	脈絡膜の他の障害	H35	その他の網膜疾患
H32	他に分類される疾患における網脈絡膜の障害	H36	他に分類される疾患における網膜の障害
H33	網膜剥離及び裂孔	H43	硝子体の障害

■主要統計の現状

- 網膜（脈絡膜、硝子体）の疾患の患者数は、継続的に増加し、2012年の103万人に比べ、2016年137万人で、34万人が増加し、診療費は、2012年1,546億ウォン、2016年に3,163億ウォンで1,617億ウォン増加した。

〈年度別網膜（脈絡膜、硝子体）疾患の患者数と診療費（2012～2016年）〉 〔単位：人、千ウォン、%〕

区分		2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	平均増減率
患者数	全体	1,033,206	1,107,911	1,174,416	1,250,968	1,371,308	7.3
	男	457,293	488,165	518,123	556,941	611,136	7.5
	女	575,913	619,746	656,293	694,027	760,172	7.2
診療費	全体	154,647,172	175,058,838	196,895,874	264,158,748	316,250,105	19.6
	男	113,924,766	130,427,261	143,674,876	200,599,343	241,198,316	20.6
	女	40,722,406	44,631,577	53,220,998	63,559,405	75,051,789	16.5

- 年齢別網膜疾患の患者数をみると、50～70代がほとんどを占め、2012年比で2016年の患者数は、すべての年齢層で増加したことが分かった。診療費もすべての年齢層で増加しており、特に40代以上の年齢層で大幅に増加した。

〈2012年比2016年網膜（脈絡膜、硝子体）疾患の患者数と診療費の現状〉

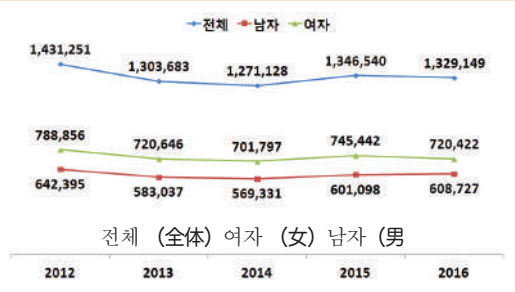
区分	診療人数（人）		
	2012年	2016年	増減率(%)
9歳以下	14,753	20,054	35.9
10-19歳	17,901	22,393	25.1
20-29歳	39,854	45,694	14.7
30-39歳	58,816	70,628	20.1
40-49歳	120,606	150,925	25.1
50-59歳	251,549	316,037	25.6
60-69歳	292,846	390,577	33.4
70-79歳	211,349	291,339	37.8
80歳以上	49,658	90,147	81.5

区分	診療費（千ウォン）		
	2012年	2016年	増減率(%)
9歳以下	1,032,301	1,605,260	55.5
10-19歳	2,229,426	2,923,932	31.2
20-29歳	5,100,639	7,037,558	38.0
30-39歳	7,079,286	11,890,153	68.0
40-49歳	15,178,845	28,230,564	86.0
50-59歳	34,297,736	64,605,343	88.4
60-69歳	44,834,039	93,133,932	107.7
70-79歳	36,192,531	80,842,679	123.4
80歳以上	8,702,371	25,980,684	198.5

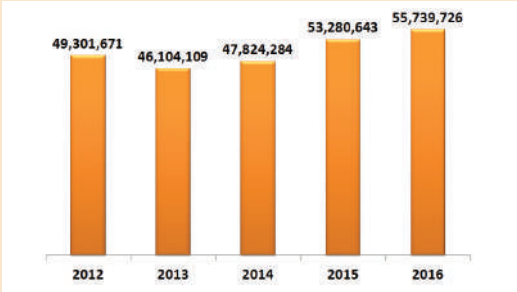
55 近視

推移と現状

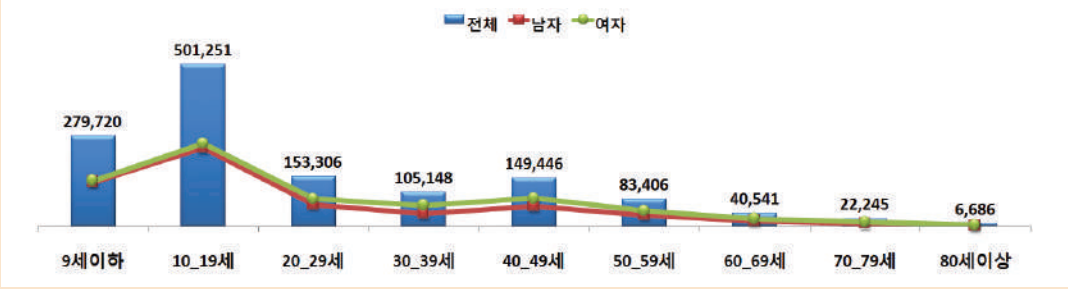
近視患者数の推移 (単位：人)



近視診療費の推移 (単位：千ウォン)



2016年 性別年齢別近視患者数分布 (単位：人)



疾患情報

近視は、遠くを眺めた時、物体の像が網膜の前方に結ぶ屈折異常である。近視では遠方の像は見えにくいが近方視力は正常である。近視は、遺伝的原因と近距離で見る行動（読書、TV、コンピュータなど）が複合して発生すると考えられている。予防のために眼科検診を受けて屈折異常の有無を確認し、異常がある場合、適切な眼鏡で矯正する。

リスク要因	症状	治療	予防
• 遺伝的素因 • 近距離作業 (読書、TV、コンピュータ) • 高インスリン血症などの栄養的な要因など	• 遠い距離の視力障害 • 乱視が伴うか、弱視を引き起こす可能性がある	• 眼鏡 • コンタクトレンズ • 角膜屈折矯正術と屈折矯正手術	• 本と眼の間を30cm以上の距離を置いて読書 • 適切な室内照明の明るさを維持 • 定期的視力検査など

統計情報

■統計算出基準

コード	傷病名	コード	傷病名
H442	変性近視	H521	近視

■主要統計の現状

- 近視の患者数は徐々に減少し、2012年の143万人に比べ、2016年に133万人で、10万人減少し、診療費は、2012年に493億ウォン、2016年に557億ウォンで、64億ウォン増加した。

〈年度別近視患者数と診療費（2012～2016年）〉

(単位：人、千ウォン、%)

区分		2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	平均増減率
患者数	全体	1,431,251	1,303,683	1,271,128	1,346,540	1,329,149	-1.8
	男	642,395	583,037	569,331	601,098	608,727	-1.3
	女	788,856	720,646	701,797	745,442	720,422	-2.2
診療費		49,301,671	46,104,109	47,824,284	53,280,643	55,739,726	3.1

- 2016年基準　近視患者数の年齢別分布は、20代以下が70.2%で大部分を占めており、年齢が増加するにつれて、患者数は減少する。2012年比で2016年の年齢別患者数は、30代以下は減少し、40代以上は増加したことが分かった。

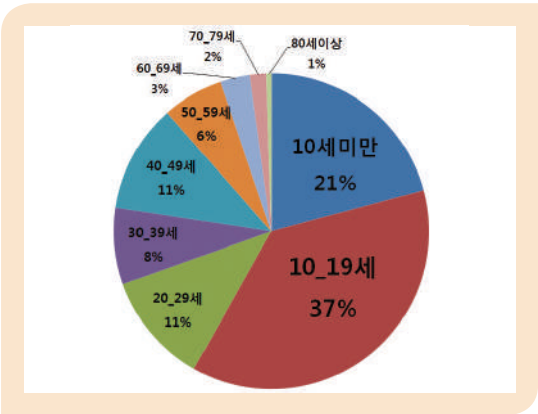
－ 9歳以下の年齢の近視患者数の減少は、少子高齢化社会を反映して、人口構造的変化と関連があると思われる。

〈2016年 年齢別近視患者数〉

(単位：人、%)

全体	9歳以下	10~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上
1,329,149	279,720	501,251	153,306	105,148	149,446	83,406	40,541	22,245	6,686
(100.0)	(21.0)	(37.7)	(11.5)	(7.9)	(11.2)	(6.3)	(3.1)	(1.7)	(0.5)

〈2016年 年齢別近視患者数の現状〉



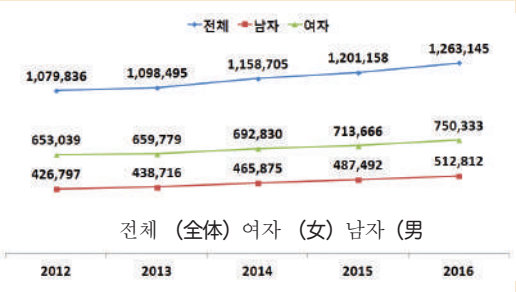
〈2012年比で2016年近視患者数の増減状況〉

区分	診療人数（人）		
	2012年	2016年	増減人数
0-9歳	339,157	279,720	-59,437
10-19歳	566,693	501,251	-65,442
20-29歳	170,072	153,306	-16,766
30-39歳	119,681	105,148	-14,533
40-49歳	132,867	149,446	16,579
50-59歳	68,173	83,406	15,233
60-69歳	28,555	40,541	11,986
70-79歳	16,963	22,245	5,282
80歳以上	4,104	6,686	2,582

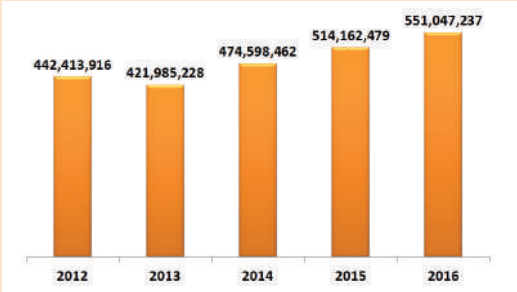
56 白内障

推移と現状

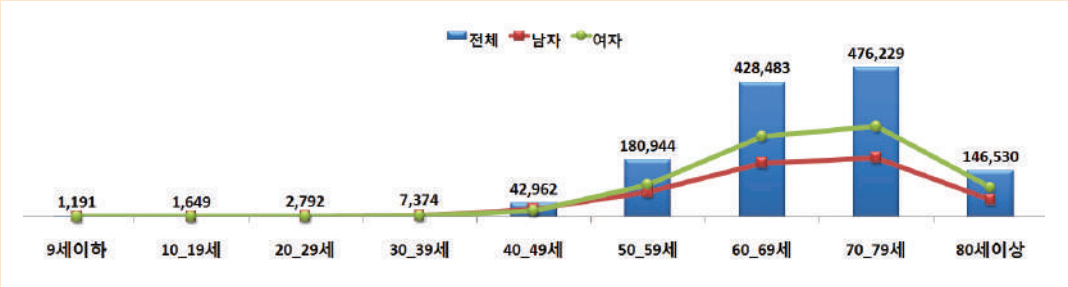
白内障患者数の推移 (単位：人)



白内障診療費の推移 (単位：千ウォン)



2016年　性別年齢別白内障患者数分布 (単位：人)



疾患情報

白内障は、眼の中でレンズの役割をする水晶体が混濁し、適切に光を透過しないため、霧が立ち込めたように、視界がぼやけ混濁した視力障害が発生する疾患である。遺伝的な原因や風疹感染などにより先天的に発生する場合もあるが、加齢や外傷、眼の炎症などにより発生する後天白内障が大半である。

リスク要因	症状	治療	予防
• 糖尿病などに関連する要因 • 喫煙、飲酒などの生活習慣 • 紫外線への過度の露出 • 遺伝的要因など	• 視力低下 • グレア • 複視など	• 薬物療法 • 手術療法 - 混濁したた水晶体除去 - 人工水晶体を挿入	• 定期的な眼科検診

統計情報

■統計算出基準

コード	傷病名
H25	加齢白内障
H26	その他の白内障
H28	他に分類される疾患での白内障や水晶体のその他の障害
Q120	先天白内障

■主要統計の現状

• 白内障で診療を受けた患者数は、2012年の108万人から2016年に126万人で、18万人増加（33.0%）し、年平均増減率は4.0%である。診療費は、2012年に4,424億ウォンで5,510億ウォンで1,086億ウォン増加（24.5%）し、年平均増減率は5.6%である。

〈年度別白内障患者数と診療費（2012～2016年）〉

(単位：人、千ウォン、%)

区分		2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	平均増減率
患者数	全体	1,079,836	1,098,495	1,158,705	1,201,158	1,263,145	4.0
	男	426,797	438,716	465,875	487,492	512,812	4.7
	女	653,039	659,779	692,830	713,666	750,333	3.5
診療費		442,413,916	421,985,228	474,598,462	514,162,479	551,047,237	5.6

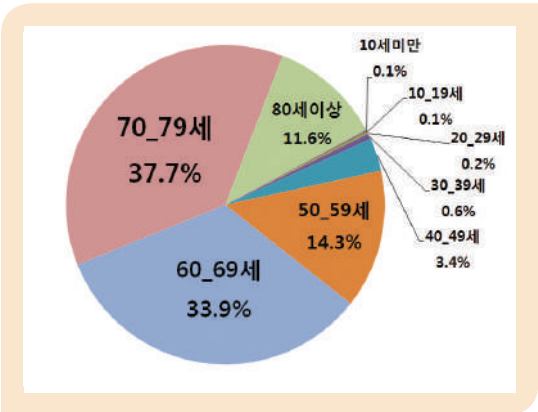
• 2016年基準　年齢別白内障患者数の割合は、白内障が老化に伴う老人性疾患であるだけに、60代以上の患者の割合が83.2%で大部分を占めている。

〈2016年年齢別白内障患者数〉

(単位：人、%)

全体	9歳以下	10~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上
1,263,145	1,191	1,649	2,792	7,374	42,962	180,944	428,483	476,229	146,530
(100.0)	(0.1)	(0.1)	(0.2)	(0.6)	(3.4)	(14.3)	(33.9)	(37.7)	(11.6)

〈2016年 年齢別白内障患者数の現状〉



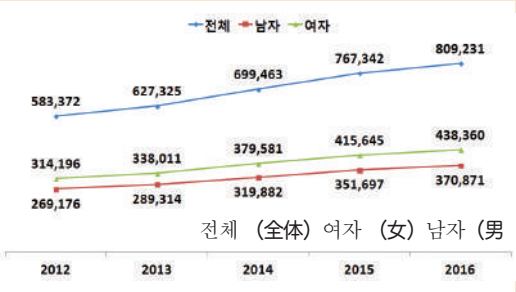
〈2012年比で2016年白内障患者数の増減状況〉

区分	診療人数（人）		
	2012年	2016年	増減人数
0-9歳	1,313	1,191	-122
10-19歳	1,808	1,649	-159
20-29歳	2,739	2,792	53
30-39歳	7,757	7,374	-383
40-49歳	37,224	42,962	5,738
50-59歳	143,862	180,944	37,082
60-69歳	366,779	428,483	61,704
70-79歳	428,489	476,229	47,740
80歳以上	115,700	146,530	30,830

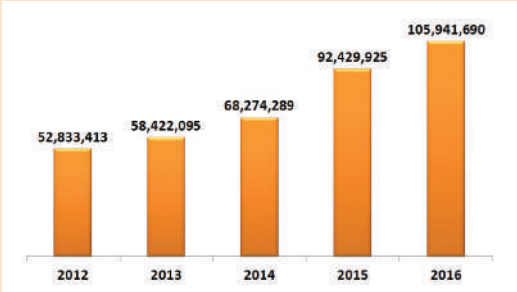
57 緑内障

推移と現状

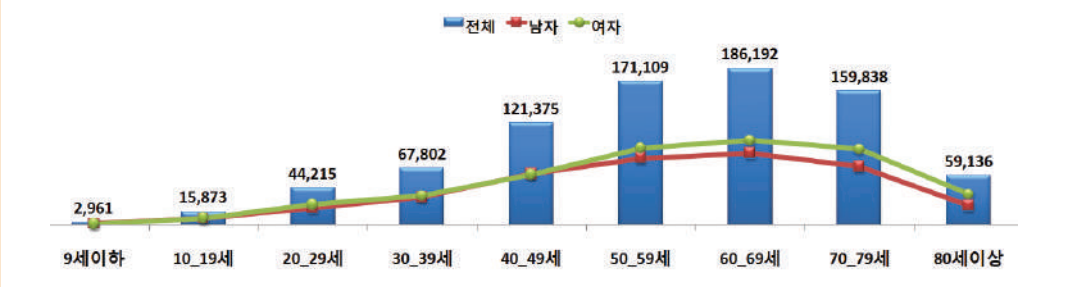
緑内障患者数の推移 (単位：人)



緑内障診療費の推移 (単位：千ウォン)



2016年 性別年齢別緑内障患者数分布 (単位：人)



疾患情報

緑内障は、眼圧上昇により視神経に異常が生じ、視野が狭くなる病気である。朝や夜遅く眼圧が上昇し、一時的に視力が低下したり、頭痛、痛みなどを訴えることがある。緑内障を発見が遅れ、症状が悪化すると、失明に至る可能性があるので、早期検診が非常に重要である。

リスク要因	症状	治療	予防
• 40歳以上 • 糖尿病網膜症などの眼疾患 • 緑内障の家族歴	急性緑内障 • 視力低下、頭痛、嘔吐など 慢性緑内障 • 初期には特別な症状なし • 視野欠損が発生	• 薬物療法 • レーザー治療 • 手術的治療法	• 定期的な眼科検診

統計情報

■ 統計算出基準

コード	傷病名	コード	傷病名
H40	緑内障	H42	他に分類されるその他の疾患における緑内障

■ 主要統計の現状

- 緑内障で診療を受けた患者数は、2012年の58万人から2016年の81万人に年平均8.5%増加し、診療費は、2012年528億ウォンから2016年に1,059億ウォンで、年平均19.0%増加した。
  – 緑内障の外来医療の割合が高い理由は、緑内障は外来患者であり、しばしば継続的な薬物治療を伴うからである。

〈年度別緑内障患者数と診療費（2012～2016年）〉 〔単位：人、千ウォン、%〕

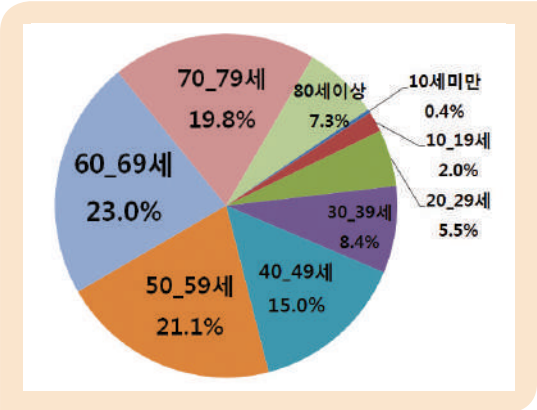
区分		2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	平均増減率
患者数	全体	583,372	627,325	699,463	767,342	809,231	8.5
	男	269,176	289,314	319,882	351,697	370,871	8.3
	女	314,196	338,011	379,581	415,645	438,360	8.7
診療費	全体	52,833,413	58,422,095	68,274,289	92,429,925	105,941,690	19.0
	男	48,297,255	54,287,562	63,345,878	87,268,088	100,016,956	20.0
	女	4,536,158	4,134,533	4,928,411	5,161,837	5,924,735	6.9

- 2016年基準　年齢別緑内障患者数の分布は、50～60代の患者が44.1%で大部分を占めている。2012年比で2016年年齢別患者数は、すべての年齢層では、患者数が増加したが、特に80歳以上が最も大きい伸び率を示した。

〈2016年年齢別緑内障患者数〉 〔単位：人、%〕

全体	9歳以下	10~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上
809,231	2,961	15,873	44,215	67,802	121,375	171,109	186,192	159,838	59,136
(100.0)	(0.4)	(2.0)	(5.5)	(8.4)	(15.0)	(21.1)	(23.0)	(19.8)	(7.3)

〈2016年年齢別緑内障患者数の現状〉



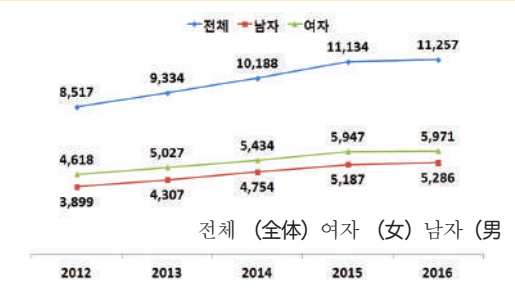
〈2012年比で2016年緑内障患者数の増減状況〉

区分	診療人数（人）		
	2012年	2016年	増減率(%)
0-9歳	2,759	2,961	7.3
10-19歳	15,217	15,873	4.3
20-29歳	38,602	44,215	14.5
30-39歳	57,583	67,802	11.7
40-49歳	92,327	121,375	31.5
50-59歳	128,697	171,109	33.0
60-69歳	125,933	186,192	47.9
70-79歳	107,264	159,838	49.0
80歳以上	31,108	59,136	90.1

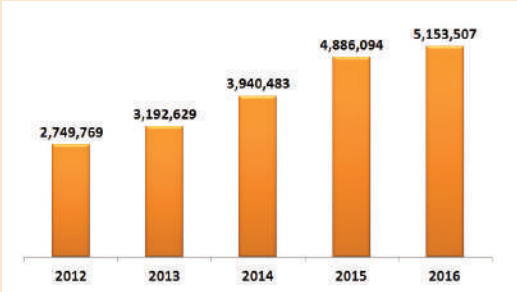
58 緑内障手術

推移と現状

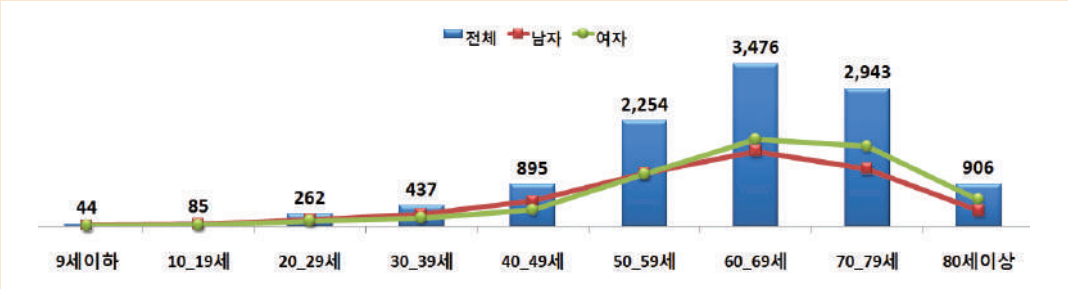
緑内障手術患者数の推移 (単位：人)



緑内障手術の診療金額推移 (単位：千ウォン)



2016年 性別年齢別緑内障手術患者数分布 (単位：人)



疾患情報

緑内障は、最初に薬物療法、レーザーなどで治療されが、その後、症状が改善せず、眼圧が適切に低下しない場合、外科的治療が行われる。　最も一般的な方法は、眼圧を制御する線維柱帯切除術および緑内障インプラント手術です。

緑内障手術（線維柱帯切除）
녹내장 수술(섬유주절제술)

手術方法

- 線維柱帯切除：眼に小さな穴を作り眼球の圧力を下げる手術
- 緑内障インプラント挿入術：眼にチューブを挿入し、眼から水を外に排出する手術

手術後の注意事項

- 禁煙、禁酒
- 頭部に血液が集まる姿勢や腹圧が上がる運動は避ける
- 気温の変化に注意すること

통계정보

■ 統計算出基準

コード	名称
S5040	緑内障手術[レーザー使用手術を含む] - 非貫通濾過術
S5041	緑内障手術[レーザー使用手術を含む] - 虹彩切除[オリジナル手術、強膜切開、強膜切除、虹彩切除]
S5042	緑内障手術[レーザー使用手術を含む] - 濾過手術
S5043	緑内障手術[レーザー使用手術を含む] - 線維柱帯切除
S5044	緑内障手術[レーザー使用手術を含む] - 虹彩、毛様体凝固術
S5045	緑内障手術[レーザー使用手術を含む] - 毛様体冷凍術
S5047	緑内障手術[レーザー使用手術を含む] - 顕微鏡下線維柱帯切開
S5048	緑内障手術[レーザー使用手術を含む] - 顕微鏡下シュレム管開放術
S5049	緑内障手術[レーザー使用手術を含む] - 緑内障インプラント挿入術
S5033	緑内障手術[レーザー使用以外の手術] - 線維柱帯切除

■ 主要統計の現状

- 緑内障手術を受けた患者数は、2012年の8,517人から2016年には11,257人で2,740人増加（32.2%）し、手術費（診療金額）は、2012年には27億ウォンで、2016年は52億ウォンで約25億ウォン増加（87.4%）した。

〈年度別緑内障手術患者数と診療金額（2012～2016年〉

(単位：人、回、千ウォン、%)

区分		2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	平均増減率
患者数	全体	8,517	9,334	10,188	11,134	11,257	7.2
	男	3,899	4,307	4,754	5,187	5,286	7.9
	女	4,618	5,027	5,434	5,947	5,971	6.6
総施行回数		12,171	13,648	15,000	16,764	17,047	8.8
診療金額		2,749,769	3,192,629	3,940,483	4,886,094	5,153,507	17.0

- 2016年基準 緑内障手術を受けた患者の年齢別シェアを見ると、60代が30.9%と最も高く、70代26.1%、50代20.0%の順となった。

〈2016年 性別及び年齢別緑内障手術患者数〉

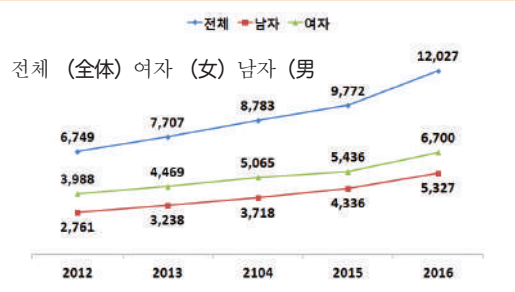
(単位：人、%)

区分	全体	9歳以下	10~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上
全体	11,257	44	85	262	437	895	2,254	3,476	2,943	906
(%)	(100.0)	(0.4)	(0.8)	(2.3)	(3.9)	(8.0)	(20.0)	(30.9)	(26.1)	(8.0)
男	5,286	25	49	144	256	542	1,132	1,609	1,228	329
(%)	(100.0)	(0.5)	(0.9)	(2.7)	(4.8)	(10.3)	(21.4)	(30.4)	(23.2)	(6.2)
女	5,971	19	36	118	181	353	1,122	1,867	1,715	577
(%)	(100.0)	(0.3)	(0.6)	(2.0)	(3.0)	(5.9)	(18.8)	(31.3)	(28.7)	(9.7)

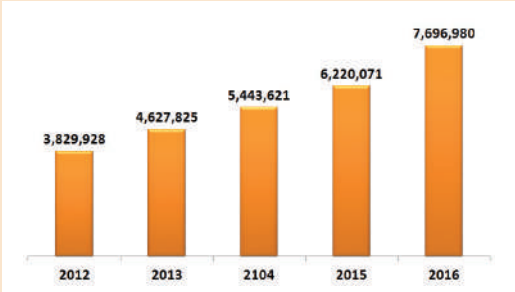
59 眼瞼下垂(眼瞼のたるみ) 手術

推移と現状

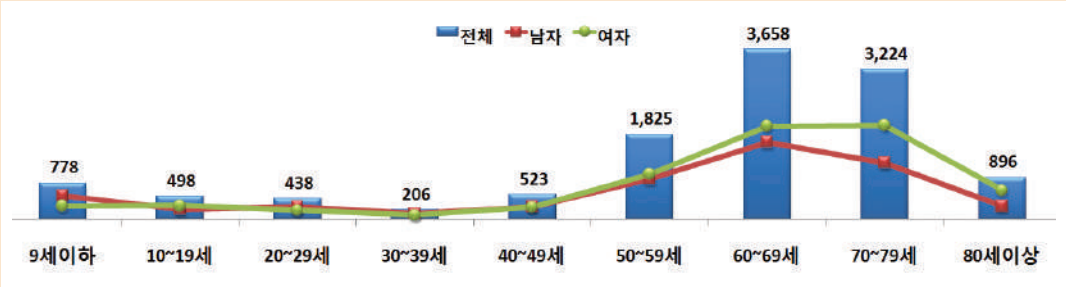
眼瞼下垂（眼瞼のたるみ）手術患者数の推移 [単位：人]



眼瞼下垂（眼瞼のたるみ）手術の診療金額推移 [単位：千ウォン]



2016年 性別、年齢別眼瞼下垂（眼瞼のたるみ）手術患者数分布 [単位：人]



診療行為情報

眼瞼下垂や眼瞼のたるみは、上眼瞼の筋肉が弱く下にたるむ現象である。先天的の場合もあれば脳神経麻痺、重症筋無力症のような全身疾患を伴って生じる場合もある。また、老化が進むにつれて眼瞼下垂が発生する場合もしばしばある。眼瞼下垂手術には、上眼瞼の筋肉を短縮して機能を強化させる眼瞼筋腱切除と上眼瞼を額の筋肉に接続して固定する前額筋テクニックなどがある。

眼瞼下垂手術 健康保険の適用基準

- 眼瞼筋（筋肉）自体または神経支配に起因する眼瞼下垂を矯正するための手術は、病気治療が目的であるため、健康保険の適用
- 老化の過程で生じる変性眼瞼下垂は、日常生活に支障をきたす視野障害を伴う場合、これを修正するための手術に限り、健康保険の適用

＊上記に該当しない外観を向上させるために実施する手術は、非給与に該当する

統計情報

■統計算出基準

コード	名称
S5291	眼瞼下垂手術_筋手術
S5292	眼瞼下垂手術_筋切除
S5293	眼瞼下垂手術_その他の手術

■主要統計の現状

- 眼瞼下垂（眼瞼のたるみ）で手術を受けた患者数は、2012年の6,749人から2015年には1万2,027人で、年平均15.5%増加した。手術費（診療金額）も2012年に38億ウォンで、2016年は77億ウォンで、年平均19.1%増加した。

〈年度別眼瞼下垂（眼瞼のたるみ）手術患者数と診療金額（2012～2016年）〉

〔単位：人、回、千ウォン、%〕

区分		2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	平均増減率
患者数	全体	6,749	7,707	8,783	9,772	12,027	15.5
	男	2,761	3,238	3,718	4,336	5,327	17.9
	女	3,988	4,469	5,065	5,436	6,700	13.8
総施行回数		11,658	13,438	15,369	17,105	21,091	16.0
診療金額		3,829,928	4,627,825	5,443,621	6,220,071	7,696,980	19.1

＊ 再手術または両眼を手術した場合、患者数は1人と算定され総施行回数比患者数は少ない

- 2016年基準年齢別眼瞼患者患者数をみると、全体の年齢の60代以上が64.6%と最も多く分布を占めている.

〈2016年年齢別眼瞼下垂（眼瞼のたるみ）手術患者数〉

〔単位：人、%〕

全体	9歳以下	10~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上
12,027	778	498	438	206	523	1,825	3,658	3,224	896
(100.0)	(6.5)	(4.1)	(3.6)	(1.7)	(4.3)	(15.2)	(30.4)	(26.8)	(7.4)

〈2012年比で2016年眼瞼下垂手術患者数の増減状況〉

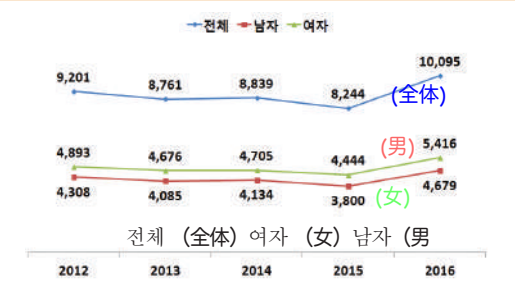
区分	진료인원(명)			
	2012年	2016年	増加人数	増減率(%)
0-9歳	457	774	317	69.4
10-19歳	342	498	156	45.6
20-29歳	281	438	157	55.9
30-39歳	173	206	33	19.1
40-49歳	312	523	211	67.6
50-59歳	1,016	1,824	808	79.5
60-69歳	1,994	3,658	1,664	83.5
70-79歳	1,764	3,220	1,456	83.5
80歳以上	416	896	480	115.4

- 2012年比で2016年、年齢別眼瞼下垂手術を受けた患者数は全年齢層で増加しており、特に60代以上で顕著な増加を示した。
  – 老化に伴う退行性眼瞼下垂を病気だと思って積極的に治療する認識の変化が作用したものと思われる。

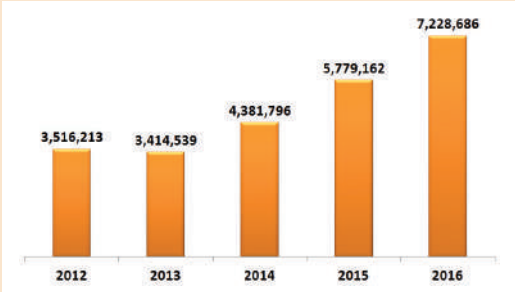
60 斜視手術

推移と現状

斜視手術患者数の推移 (単位：人)



斜視手術の診療費推移 (単位: 千ウォン)



2016年 性別年齢別斜視手術患者数分布 (単位：人)

診療行為情報

眼鏡、薬物療法、遮蔽治療などの非手術的治療で斜視が矯正されない場合、手術的治療を考慮する。斜視手術は目の動きを担当する眼筋の位置を移動したり、付着する方法である。手術後には感染しないように手の洗浄などの衛生に注意し、再発の可能性を減ずるために、継続的観察が必要である。

斜視手術の健康保険基準<告示 第2009-122号（行為）>

- 10歳未満の斜視患者
- 10歳以降の斜視患者
  -全身性疾患、眼窩疾患、外傷、複視または錯乱のために斜視がある場合
  - 10歳以前に発生した斜視で異常頭位現象がある場合
- 上記の患者における一次斜視手術後の過剰矯正を伴う二次手術

＊視力や視機能回復を期待することができない、外観向上のために実施する美容目的の斜視手術は非給与対象で健康保険の適用を受けることはできない。

統計情報

■ 統計算出基準

No.コード	種類
S5173	斜視手術[単純]-単一眼筋
S5174	斜視手術[単純]-複数眼筋
S5175	斜視手術[複雑]-単一眼筋
S5176	斜視手術[複雑]-複数眼筋

■ 主要統計の現状

• 斜視手術を受けた患者数は、2012年9,201人から2016年には1万95人で年平均2.3%増加し、斜視手術費（診療金額）は、2012年には35億ウォンで、2016年は72億ウォンで、年平均19.7%増加した。

〈年度別斜視手術患者数と診療金額（2012～2016年）〉

[単位：人、回、千ウォン、%]

区分		2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	平均増減率
患者数	全体	9,201	8,761	8,839	8,244	10,095	2.3
	男	4,308	4,085	4,134	3,800	4,679	2.1
	女	4,893	4,676	4,705	4,444	5,416	2.6
総施行回数		14,250	13,580	13,821	12,938	16,219	3.3
診療金額		3,516,213	3,414,539	4,381,796	5,779,162	7,228,686	19.7

＊ 同時に両眼の手術をした場合、総使用量は2、患者数は1で算定され総使用量比患者数は少ない

• 2016年 年齢別斜視手術患者のシェアを見ると、9歳以下の患者は全体の患者の89.5%を占めている。
– これは視力や視機能が完全に成熟する前に斜視の手術を受けるほど視力と視機能の改善を期待することができ、10歳前の患者は斜視手術が健康保険適用であるためであると考えられる。

〈2016年 性別・年齢別斜視手術患者数〉

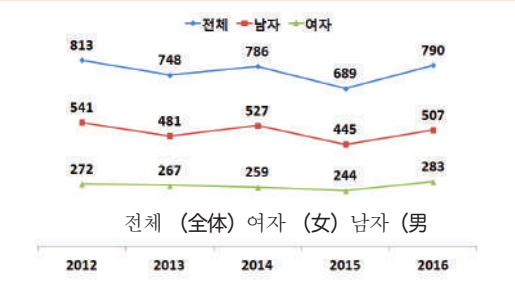
[単位：人、%]

区分	全体	9歳以下	10~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上
全体	10,095	9,034	274	172	123	123	176	116	69	9
(%)	(100.0)	(89.5)	(2.7)	(1.7)	(1.2)	(1.2)	(1.7)	(1.1)	(0.7)	(0.1)
男	4,679	4,113	128	107	65	69	92	62	37	6
(%)	(100.0)	(87.9)	(2.7)	(2.3)	(1.4)	(1.5)	(2.0)	(1.3)	(0.8)	(0.1)
女	5,416	4,921	146	65	58	54	84	54	32	3
(%)	(100.0)	(90.9)	(2.7)	(1.2)	(1.1)	(1.0)	(1.6)	(1.0)	(0.6)	(0.1)

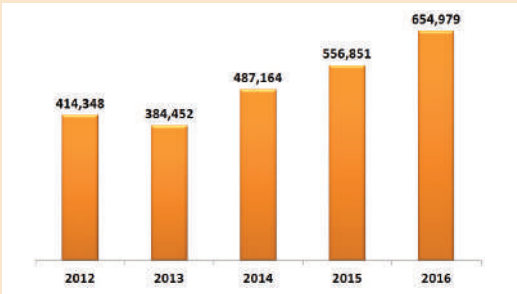
61 角膜移植

推移と現状

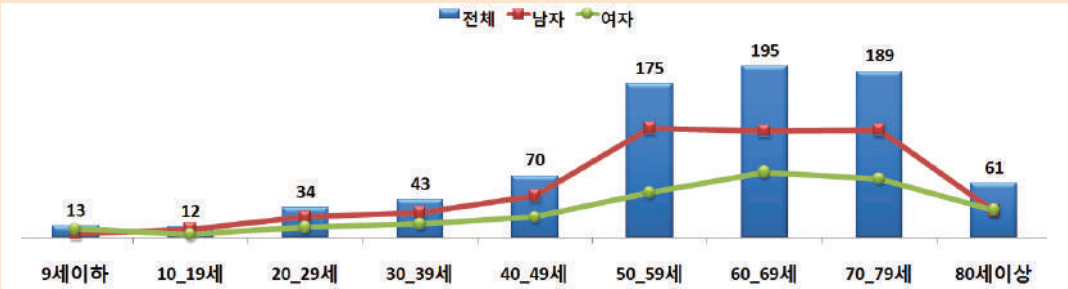
角膜移植患者数の推移 (単位：人)



角膜移植の診療金額推移 (単位：千ウォン)



2016年性別、年齢別角膜移植患者数分布 (単位：人)



疾患情報

角膜移植は角膜の機能的または構造的に回復が不可能な損傷が生じた場合、損傷した角膜を別の人から提供されたきれいな角膜に置き換える手術である。

手術方法

- 真空角膜円形切除機によるレシピエント及びドナーの角膜の切除
- 切除したドナー角膜をレシピエントの眼に移した後、極細ナイロン縫合糸を使用してドナー角膜をレシピエントに縫合する

手術後の管理

- 眼をこすったりぶつけたりしない
- 一定期間、洗顔、シャワー、染色などをしない
- 手術後、少なくとも1か月程度は眼球保護プラスチック眼帯を必ず着用する
- 手術後、約1か月間は、激しい肉体労働や無理な運動を避ける

統計情報

■統計算出基準

コード	名称
S5371	角膜移植 - 表層
S5372	角膜移植 - 全層

■主要統計の現状

現在、国内の臓器移植全般に関する事項を総括する国立臓器移植管理センターの統計によると、国内で行われる角膜移植は、年平均約250～300件程度で手術待機は約3,500人に比べて提供眼は非常に不足している。国内からの提供不足の問題で輸入角膜の使用頻度が増加傾向がある。（出典：臓器移植管理センター）

＊ 臓器移植管理センター角膜移植の統計は、国内の臓器移植は輸入角膜による移植は対象から除外されている。

- 角膜移植手術を受けた患者数は年平均750～800人程度と大きな変化はないが、角膜移植手術費（診療金額）は、手術の補償などで毎年増加する傾向にある。

〈年度別角膜移植患者数と診療金額（2012～2016年）〉

(単位：人、回、千ウォン)

区分		2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
患者数	全体	813	748	786	689	790
	男	541	481	527	445	507
	女	272	267	259	244	283
総施行回数		845	775	820	722	829
診療金額		414,348	384,452	487,164	556,851	654,979

＊ 輸入角膜による角膜移植件数も含まれている統計.

- 2016年基準 性別角膜移植手術を受けた患者数の割合は、男性64.2%、女性35.8%で、男性が女性よりも多くの割合を占めている。年齢別分布は、男は50代が24.5%と最も多く、女性は60代が26.1%と最も多いことが分かった。

〈2016年性別及び年齢別角膜移植患者数〉

(単位：人、%)

区分	全体	9歳以下	10~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上
全体	790	13	12	34	43	70	175	195	189	61
(%)	(100.0)	(1.6)	(1.5)	(4.3)	(5.4)	(8.9)	(22.2)	(24.7)	(23.9)	(7.7)
男	507	4	9	23	28	47	124	121	122	30
(%)	(100.0)	(0.8)	(1.8)	(4.5)	(5.5)	(9.3)	(24.5)	(23.9)	(24.1)	(5.9)
女	283	9	3	11	15	23	51	74	67	31
(%)	(100.0)	(3.2)	(1.1)	(3.9)	(5.3)	(8.1)	(18.0)	(26.1)	(23.7)	(11.0)